ハロウィーンSS（現代パロ）

彩月絢芽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハロウィーンＳＳ（現代パロ）

【Ｎコード】
Ｎ１１８５Ｙ

【作者名】
彩月絢芽

【あらすじ】
ハロウィーンを知らない一の前に、現れた覆面の男が・・・？
現代パロ、コメディ風です。

今日はハロウィーン。
しかしそんなことも知らない一は、夕飯を作りながら総司の帰りを待っていた。

ピンポーン。
玄関のチャイムが鳴った。
総司なら、鍵を持っているので入って来るはずだ。
しかし、ドアは開かない。
もう一度、チャイムが鳴った。

（今時分、誰が訪ねて来るというのだ？）

一は、訝しがりながらもドアを開けた。
すると、覆面をした長身の男が立っていた。
すぐに危険を察知した一は、ドアを閉めようとした。
ところが、男は力任せに押し入ってきた。

「おい、あんた、一体何の用だ。うちには・・・」
「ごちそうくれなきゃ、イタズラするぞ」
甲高い、妙な声だ。ヘリウムで声を変えているのか。

男はジリジリと詰め寄って来る。これはますます危険だ。
一は後ずさった。ひとまず台所までいけば、撃退できる武器が手に入るはずだ。
・・・ん？
しかし、今男は『ごちそう』と云った。

「し、しばし待ってくれ！」

数分後、男の目の前には一の作った夕食が残っていた。

「腹が減ってこんな事をしでかしたのなら、今回は大目に見てやる。好きなだけ食って帰れ」

男の肩が小さく震えだした。やがてそれは次第に大きくなり、

「あっはっはっは、もうダメだ～」

覆面を脱ぎ捨てた男は、総司だった。

「なっ・・・、総司、一体何だったのだ！何故こんな真似を・・・。冗談にしては質が悪すぎる」

「知らないの、一くん。今日はハロウィーンだよ？」

「ハロウィーン？何なのだ、それは」

「こういう風にお化けの仮装をして、ごちそうをもらいに行く日なんだよ？」

「しかし・・・・」

一は溜息をついた。

「本当に強盗が入って来たのかと思ったぞ。あれは心臓に悪すぎる」

「ごめんねー。あんなに怖がるとは思ってなかったんだよ」

総司は鞄から包みを取り出した。

「はい、一くんの分」

それは、ウサギの耳のついたカチューシャだった。

「こ、これを俺がするというのか？！いや、断る」

「えー、そんなこと云わないでよ」

総司はしょげた顔をする。
一の胸がちくりと痛んだ。

「ええい、今日だけだぞ！」

途端に総司の瞳はキラッと輝いた。

「わーい、ありがと一くん。
それじゃ、ごちそうはいただいたからイタズラ、してもいい？」

「なに、それでは話が違う」

「いいんだよ、何でも。さっきの青ざめてた一くん、可愛かったよ。
どんなイタズラしてほしい？」

「俺の分のごちそうはないのか！」

「えー、そんなことはないよ」

総司はそこでにやりと笑った。

「僕のイタズラは、君のごちそう、でしょ？」

（後書き）

この後のイタズラとはご想像に（ｒｙ

本当は覆面の男に襲われて・・・というとこも考えたのですがラストとうまくつなげず。

うまくつなげられたらいつかＲ－１８バージョンも書いてみます。

あと、書き忘れたけどそれから一は何度も

事ある毎に総司にうさ耳をつけられたと言う・・・。

今回は１００％フィクション（妄想）です！ｗ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1185y/

ハロウィーンSS（現代パロ）

2011年11月13日07時31分発行